

●第50回地盤震動シンポジウム(2022)●

# 地盤震動研究の50年と今後に向けて

<主催> 日本建築学会構造委員会 振動運営委員会 地盤震動小委員会

1972年に第1回地盤震動シンポジウムが開催され、今年は50回目を迎える。第1回では「建築物の設計に考慮すべき地震動」のテーマで議論がなされた。その後、多くの被害地震を経験し、そこで発生した現象の理解と、その知見に基づく耐震設計や地域地震被害想定などへの適用が進んできた。本シンポジウムでは、関東地震より100年を直前にして、これらの地盤震動研究の成果と今後について、この50年の本小委員会活動を振り返ることで俯瞰する。具体的には、本小委員会ではほぼ毎年実施してきたシンポジウムのテーマの変遷、約10年毎に公表されてきた出版物の変遷を、それらに携わった元主査による講演に基づき再確認すると共に、建物応答や地震荷重を評価する側から、今後、地盤震動研究へ期待することを伺う。そして、2023年に刊行予定の出版物へも反映される最新知見を踏まえ、今後の地盤震動研究のあり方を議論する。

日 時：2022年11月25日（金）10:00～18:00

場 所：建築会館ホールとオンラインの併用（感染状況により視聴は全てオンラインに変更されることがあります）

内 容（各講演の題目等は変更されることがあります）

司会：神野達夫（九州大学）・川辺秀憲（大阪大学）

1 主旨説明 10:00-10:10 : 上林宏敏（小委員会主査／京都大学）

2 地盤震動研究の50年 10:10-12:50

2-1 70～80年代での小委員会活動を振り返って－その背景と研究動向－

: 北川良和（元建築研究所・慶應大学）

2-2 メキシコ地震1985と兵庫県南部地震1995の頃 : 瀬尾和大（元東京工業大学）

2-3 失われた10年：強震動予測レシピの確立と幻に終わった設計用入力地震動作成「指針」

: 川瀬博（京都大学）

2-4 2011年東北地方太平洋沖地震・2016年熊本地震など近年の地震から学んだこと

: 久田嘉章（工学院大学）

司会：大堀道広（福井大学）・吉田邦一（地域地盤環境研究所）

3 地盤震動研究はどう期待されるか 13:50-15:10

3-1 建物の動的設計から期待する地盤震動研究 : 山本雅史（竹中工務店）

3-2 地震荷重評価の面から期待される地盤震動研究 : 石井透（清水建設）

司会：浅野公之（京都大学）・高橋広人（名城大学）

4 地盤震動研究の新知見から 15:30-17:00

4-1 震源特性研究に関する新たな知見 : 引間和人（東電ホールディングス）

4-2 伝播経路特性研究に関する新たな知見 : 仲野健一（安藤ハザマ）

4-3 地盤増幅特性研究に関する新たな知見 : 佐藤浩章（電力中央研究所）

司会：高井伸雄（北海道大学）・境有紀（京都大学）

5 総合討論：地盤震動研究の今後に向けて 17:00-18:00

記録：三浦弘之（広島大学）

定員：会場100名（事前申込み先着順） 動画配信100名（事前申込み先着順）

参加費：会員5,000円、会員外8,000円、学生3,000円 \*資料代3,000円含む

問合せ：事務局 事業グループ 高畑 Tel.03-3456-2057

**”参加申し込み方法は決まり次第追加掲載します”**